

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成27年12月)

～現状判断は6か月ぶりに上昇も、DIの50割れが続く～

- 景気ウォッチャー調査・12月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が6か月ぶりに上昇、先行き判断は2か月連続の低下となった。
- 足元の状況については、前月に続いて気温が例年よりも高めに推移したことで、衣料品や家電、食品を中心とした季節商品の売行きに大きな影響が出た。さらに、季節感の乏しい12月となったことで、クリスマスや年末商戦が例年ほど盛り上がり上がらなかったとの声も聞かれる。
- インバウンドに関しては、前年を上回る動きが続いているものの、中国経済の減速に加え、免税対象商品の拡大から1年が経過したこともあり、減速感が出ている。
- 一方、先行きについても、暖冬が続く見通しであることから、冬物商品の売行きへの不安の声が多い。また、消費税率10%への引上げ時期が迫るなか、駆け込み需要に対する期待の声と並び、節約志向が強まることへの懸念も大きくなっている。
- インバウンドによる消費については、引き続き鈍化するとの見方が少なくない中、2月の春節では前年割れとなることを心配する声も聞かれる。

「暖冬」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなる	コンビニ(経営者)	・暖冬の影響もあり、例年に比べて防寒用品やホット飲料の売上が芳しくないが、プレミアム系商品やファストフードは相変わらず好調で、結果的に客単価が少し上がっている。
		その他専門店[医薬品](経営者)	・クリスマスや年末ムードで周囲は何かと慌ただしいようにみえるが、ドラッグストア業界は暖冬の影響でカイロや風邪薬などの売上が非常に悪い。プレミアム付商品券の利用で何とか助かっている。
	変わらない	一般小売店[衣服](経営者)	・天候不順という大きな要因で売上が伸びず、来店しても冬物を買求める客は少ない。
		百貨店(売場主任)	・気温が高めであり、冬物衣料や防寒用品は大苦戦となっている一方、宝飾品など的高額商品は好調である。ただし、季節要因を除いても、決して良くはない。
		百貨店(売場主任)	・今月は気温の影響もあって冬物防寒衣料の動きが非常に厳しく、売上目標は未達である。輸入ブランドを中心とした高額品やこだわりの商品、趣味関連の商品の動きは決して悪くないが、客はタンスに商品をたくさん持っているため、特色のない商品の購買には、これまで以上に慎重な姿勢がみられる。
		百貨店(企画担当)	・暖冬の影響による防寒商品の不振が大きく影響しており、12月に入っても売上の不振が続いている。この時期になれば、仮に寒波がきたとしても、クリアランスを待つ客が多い。
	百貨店(服飾品担当)	・12月の動向として、気温が高かったことで防寒商材の売上は全国的に悪く、コートや手袋、ブーツといった商品が軒並み前年を20～30%下回るようになった。一方、クリスマスのギフト商戦では商品単価が低下した。昨年にはかなり売れたプラチナ素材が今年は苦戦し、10金やシルバーといった比較的買いやすい素材の商品に需要がシフトしている。ただし、気温やギフトの動向に左右されない、化粧品関連の売上は順調に推移しており、主に都心店舗での売上は7～8%アップしている。インバウンド消費はやや伸びが止まったものの、減少はしておらず、高額商材は引き続き好調に推移している。	

家計動向関連	変わらない	百貨店（マネージャー）	・ファッション関連では防寒商品が総じて不振である。気温の影響もあるが、クリスマスや年末商戦をみると、二極化の傾向が顕著となっている。おせち料理やクリスマスケーキが好調な一方、ギフトのボリューム品は来客数、客単価共に、ダウンに終わっている。
		百貨店（外商担当）	・気温が下がらないのでコートなどの冬物衣料は低調であるが、海外ブランドの時計は好調に推移している。また、インバウンド売上は前年を上回っており、売上の増加に大きく貢献している。
		百貨店（売場マネージャー）	・暖冬が続き、婦人服の重衣料を中心にアパレル部門が苦戦しているが、宝飾品や絵画などは好調に推移しており、店全体としては前年の実績を確保できている。
		百貨店（商品担当）	・ボーナス商戦に期待していたが、暖冬の影響が大きく、コートなどの衣料品を中心に防寒商品が苦戦しており、全体的にも厳しい状況である。一方、特選洋品や時計などの高額商品は比較的好調に推移している。
		スーパー（店長）	・気温が高めで推移しており、食品では鍋物関連、衣料品では防寒商材、住居関連では寝具関連が大苦戦となっている。また、季節感がないため、クリスマスや歳末商戦も盛り上がりがなく、売上が全体的に悪化している。
		スーパー（経理担当）	・季節外れに雨が多く、気温も高いことから、季節品を中心に売上は今一つである。クリスマスや年末の日並びも悪く、例年ほど盛り上がっていない。
		その他小売 [インターネット通販]（企画担当）	・年末商戦では、おせち料理こそ前年並みの売上を確保したが、ファッション関連では暖冬の影響が大きく、2けたを超える落ち込みとなっている。
		百貨店（企画担当）	・富裕層である外商顧客の購買状況は、依然として好調な動きが続いている。一方、ボリューム層は前年と比べて気温が高かったこともあり、クリスマスやプレセールでの売上が伸びず、厳しい状況となっている。インバウンドの動きについては、化粧品の売上だけは前年の2.7倍に増加しているが、一般免税品の売上は1.2倍にとどまるなど、全体的に伸び率が鈍化している。
		百貨店（売場マネージャー）	・冬物商戦やクリスマス需要の月であるが、非常に厳しい。まず、コートは暖冬の影響で売上が前年よりも20%減少し、ブーツも同じく苦戦している。ボリューム層による買い控えが続いており、特に30～40代の減少傾向が顕著である。クリスマス商戦ではケーキの需要は前年を上回っているものの、アクセサリー需要は2%減っている。11～12月のお歳暮ギフトについても1.5%減と、いずれも厳しい結果となっている。
		やや悪くなる	百貨店（販促担当）
百貨店（営業企画）	・気温の低下が進まず、防寒衣料や雑貨の動きが極端に悪い。セールの開始が間近となり、定価での販売機会を失った感がある。		
百貨店（マネージャー）	・暖冬による冬物衣料の不振が顕著である。紳士コートの売上が前年比で25%減、紳士ブルゾンが27%減、紳士セーターが13%減、紳士マフラーが18%減、紳士手袋が52%減と、重点アイテムが前年比で大幅に減少した。また、これまではインバウンド需要が好調をけん引していたが、店全体では前年比で15%増と何とかプラスを維持しているものの、増加を支えていた時計が45%減と、大幅な減少に転じている。		
百貨店（マネージャー）	・食料品フロアの大型改装もあり、入店客数は前年を1～2%上回っているものの、販売数量は前年並みにとどまっている。また、12月中旬以降も気温の高い日が多く、紳士服や婦人服の防寒衣料の売上は前年よりも20～25%少なく、販売数量、客単価が大きく悪化している。一方、化粧品、宝飾品はインバウンドの需要も含め、依然として前年比で20%以上増えているものの、特選衣料は国内消費の動きが悪く、合計では前年並みにとどまっている。		
スーパー（経営者）	・11月に続いて気温が高めとなった結果、鍋物商材やカイロ、風邪の予防商品などの動きが非常に悪かった。また、農産物の成育が良かったことで、大幅な相場安も続いた。結果として全体的に金額に金銭の増えない状況が続いた。年末年始の休暇も短く、盛り上がる日数が年末の3日間に限られている。		
スーパー（店長）	・冬のボーナス支給後の日曜日から、歳末商戦は前年を下回る動きとなっており、生活必需品の販売もシビアになってきている。また、気温が高い影響で季節品の売行きも良くない。		
スーパー（店長）	・街角の景況感が低調なほか、暖冬による消費への悪影響で、鍋食材などの食品を始め、衣料品や暖房機具、寝具などの売上が軒並み前年を下回っている。		
スーパー（企画担当）	・暖冬による衣料品、野菜の相場安で、それぞれの売上は前年比で80%、90%前半の推移となっている。		
スーパー（広報担当）	・気温が高いため、季節商材の動きが極端に鈍い。比較堅調であった食料品についても、生鮮品を中心に伸びがやや鈍化している。		
住関連専門店（店員）	・暖冬のため、冬物商材の販売が鈍化している。		
企業動向関連	悪くなる	百貨店（営業担当）	・暖冬のため防寒関連の動きが悪く、食品も食材関連が不振である。一方、スイーツや総菜などは堅調に推移している。
		その他サービス業 [店舗開発]（従業員）	・東南アジアや中国、韓国からの旅行客が非常に多かったせいか、まとめ買いの効果で土産物の客単価が非常に高くなった。一方、冷え込みが厳しい日が数日あったものの、総じて平年よりも気温の高い日が続いたこともあり、冬物商材は早々に値引き処分に入った様子である。また、大型商業施設の開業効果はさほど感じられない。
	変わらない	食料品製造業（従業員）	・年末は販促企画が多く、それなりの売上を期待していたが、思ったようには増えなかった。気温の問題もあり、鍋物などの季節商品の販売が伸びていないようである。競合他社の値下げが目立つなかで、低価格品の販売量は増えているが、利益の増加につながっていない。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・暖冬の影響もあり、エアコンや冬物商品の荷動きが鈍く、全体的に低調な推移となっている。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 13					14					15														
		12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
現 状 判 断	近畿	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9	51.4	49.3	49.4	47.0	45.4	47.6	47.8	53.3	54.6	54.9	53.1	53.3	52.4	51.4	50.5	49.9	46.8	49.2
	(全国)	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7	51.3	47.4	47.4	44.0	41.5	45.2	45.6	50.1	52.2	53.6	53.3	51.0	51.6	49.3	47.5	48.2	46.1	48.7
先 行 き 判 断	近畿	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5	51.9	51.9	51.5	50.0	48.2	48.6	51.6	55.5	55.5	56.1	53.7	54.2	52.6	47.3	49.9	51.4	48.7	48.5
	(全国)	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3	51.5	50.4	48.7	46.6	44.0	46.7	50.0	53.2	53.4	54.2	54.5	53.5	51.9	48.2	49.1	49.1	48.2	48.2